



おなだに 柏崎女谷地区の「賽の神」



柏崎周辺農業水利事業所

1月15日(日)に市野新田ダムの地元女谷地区上野集落において、小正月の火祭り「賽の神」が執り行われました。「賽の神」は、一年の五穀豊穡と無病息災を祈る行事で、歳神様の送り火として全国各地で行われる「左義長」や「どんど焼き」と同様の行事です。当日は、前日から降り続く大雪(現地は約1mの積雪)でしたが、地元集落や事業所等から20数名が参加し、作業を行いました。

作業は新雪を踏み固め作業場を作るところから始まります。その後、支柱となる竹を立ててその周囲に稲藁を結びつけた枝を立て掛け円錐状に整形し、しめ縄を巻いて「賽の神」の完成です。

その後、祭壇のろうそくから採られた火がつけられ、あっという間に賽の神は炎に包まれ、時折、竹が「ポンッ！」と爆ぜる音が辺りに響いていました。また、燃え上がる火が向く方向にある田は、その年豊作になると言われており、参加者は新年の豊穡と無病息災を祈っていました。

「賽の神」に火をつけたあとは、参加者には御神酒が振る舞われ、燃え上がる「賽の神」の火であぶったスルメや餅などを一同いただきました。

こうした「賽の神」は、小正月を祝う季節の行事として柏崎刈羽地域の他地区でも行われており、地域の魅力と、美しく歴史ある農村を後世へ伝えるものです。そのため当事業所としても、こうした伝統行事にも積極的に参加・協力し地域の発展に貢献していきたいと考えています。



雪が舞う中、全員で準備します



藁を巻きつけて微調整



吹雪の中、皆で作った賽の神



来年も豊作になりますように